1992 年 4 月 17 日第三種郵便物認可（毎月 3 回 7 の日発行）

2022 年　1 月　20 日発行　　SSKR 通巻第　9395 号

SSKR

にじの会だより

Vol.80

社会福祉法人　にじの会
理事長　石崎　優仁
〒181-0015　東京都三鷹市大沢１－６－3
TEL 0422-39-2411
FAX 0422-39-2412
ホームページ：nijinokai.org

あけましておめでとうございます

社会福祉法人にじの会理事長　石崎優仁

２０２２年の新年を皆様いかがお迎えになられたでしょうか。

２年前からの新型コロナウィルス感染が、昨年１２月以降オミクロン株の流入で急拡大し第６波の到来といわれています。今後も各種の変異株の発生に対応し「コロナとも共生の社会」を考えていく時期になっているようです。

昨年２０２１年は、にじの会では新型コロナ対応を中心に運営をしてまいりましたが、その中でも多くの前進面が以下のように見られております。

１．新型コロナ対策の強化　―２年目に入り積極的な対策を実施しています。

①定期的 PCR 検査の実施　全利用者・職員の毎月１回の検査、生活支援職員の毎週検査の実施

②コロナワクチンの２回接種　７・８月に集団接種　利用者はほぼ全員完了、
役職員は６月～１０月に９５％超が完了

③感染予防策の徹底　マスク着用・手洗い励行・３密防止・換気励行等の予防策を実行し
より多くの利用者が実施できるようになっています。

この対策を実施する事で、施設内感染を防止することができました。

２．コロナ禍での活動の充実　―行動制限がある中で支援の質を確保する努力をしました。

①施設外でのイベントの実施　にじの会美術作品展（３月）　ウォーキング大会（４月）
野外スポーツ大会（１１月）感染予防を徹底して開催

②ICT を活用したクリスマス会等施設内行事や運動・美術活動の充実

③生活余暇支援や日中の支給金活動で、調理活動や安全な場所への外出等を実施

この取り組みで、利用者の機能低下やストレスでの不安定を防止できました。

３．ICT を使った事業運営の開始　―従来、対面や紙ベースで実施していた業務を ICT ベースに

①リモート動画で日中参観を実施　各工房等の活動状況を動画編集し視聴者限定のユーチューブでご家族に提供し好評をいただきました。

②研修のリモートベースでの実施　内部研修（階層別・テーマ別）をズームベースで実施
全体研修を事業所集合研修としズームベースで実施
外部研修も殆どズームベースで受講

③事務処理や連絡等での ICT 活用　勤務表・給食数管理等の業務を ICT 活用で改善実施

今後の ICT 活用した事業運営の方向をスタートすることができました。

４．２０周年記念事業の実施　―この１０年を振り返り、次の１０年のスタートになりました。

①２０周年記念誌の発刊　　２０年の歩みと現在の到達点をまとめています。

②２０周年記念式典を開催　感染が下火な時期に式典のみ感染予防を徹底して開催しました。

２０２２年は、昨年の取組を踏まえ SDG s に資する事業運営を目指します。皆様の一層のご指導とご支援を宜しくお願い申し上げます。

末筆ながら、今年が皆様に幸多き年になりますようお祈り申し上げます。

1992 年 4 月 17 日第三種郵便物認可（毎月 3 回 7 の日発行）

2022 年　1 月　20 日発行　　SSKR 通巻第　9395 号

新型コロナウィルス感染対策・今後のにじの会の取組み

にじの会理事長　石崎　優仁

新型コロナウィルス感染は、オミクロン株の流入と冬季の乾燥と換気不足や年末年始の行動活発化の影響により急速に新規感染者が増加しており、第６波の到来が指摘されています。また、欧米ではワクチンの時間経過による抗体力低下とオミクロン株置換で急激な感染再拡大が多発しており、３度目の追加接種が急がれる状態になっています。今後は、変異株の特性を把握し感染予防を徹底しながら「新型コロナウィルスと共存する社会」のあり方を探っていく時期になっていくと思われます。

必要な時にワクチン接種や PCR 検査を受けられる体制を作り、感染拡大時の医療体制の整備を進めるとともに、変異株に適合する感染予防策を採り、感染リスクを避けながら徐々に社会活動を再開させていくことになります。

にじの会では、毎月１回の一斉 PCR 検査と生活支援職員の毎週検査を実施しており、正月帰省期間明けの１月上旬まで利用者・職員全員の陰性確認ができていますが、今年も引き続き PCR 検査を定期的に実施し、ワクチンの追加接種も必要になると考えております。また、陽性者発生の場合も BCP 計画に沿って対応し施設内感染を防止できるよう検査・医療・隔離等の体制も引き続き準備してまいります。

上記の「コロナ共存社会の方向性」の中で、にじの会の事業運営は感染予防策を維持しながら社会活動を徐々に再開していく方向としておりますが、オミクロン株による第６波を受けて昨年１１月に緩和した行動制限事項を見直し感染予防状況を再チェックし、安全を確認しながら進めてまいります。

＜事業運営＞

１．行事予定　①個別支援計画家族面談（３月中）　安全を確保して実施します。（書面も可）
　　②施設家族連絡会（３月２７日）　三鷹産業プラザで全体会・生活懇談会実施

２．短期入所　２月より通所利用者と前３日以内の陰性確認者に限定して受入れます。

３．就労事業の営業時間　ハーモニーガーデンは火～金は１７時まで・土曜は１９時半まで営業
　　オーソレミオは１７時まで・大沢ハーモニーは１６時半までの営業

４．地域貢献事業　①大沢地区買い物送迎支援事業は週３回送迎支援・週１回代行支援を実施
　　②三鷹市内の子ども食堂へのパン・惣菜の無償提供を月１～２回実施

＜PCR 検査＞

１．一斉 PCR 検査は全利用者・役職員対象に毎月１回継続して実施します。

２．都の現物支給による生活施設職員の毎週 PCR 検査は支給が継続される間、実施します。

３．都の無症状者への無料 PCR 検査実施に伴い、感染リスクのある行動をとった人には各自で受検し陰性確認後に利用・勤務の再開を認めることにします。

＜感染予防策＞

１．利用者・職員の予防策の継続
　①体調異常時の静養と通院して PCR 検査の受検
　②通所時の混雑時の時差通勤とマスク着用の徹底
　③夜間・週末の外出時は人混みを避け、手指消毒の励行
　④家族等に感染可能性ある場合の通所自粛

２，行動制限を行う外出先
　①マスクを外して他人と接する行動・場所
　②換気・混雑状況からリスクが高い場所・交通機関
　③マスク無しや大声を出す危険がある行動・場所
　④感染予防策が不十分な場所

以上のようにマスク・手洗い・３密防止等の感染予防策を徹底し、リスクのある行動を避け、リスクのある人には PCR 検査の陰性確認後の利用再開とし、施設内感染を防止していきます。

1992 年 4 月 17 日第三種郵便物認可（毎月 3 回 7 の日発行）

2022 年　1 月　20 日発行　　SSKR 通巻第　9395 号

2021 年度　第 11 回屋外スポーツ大会報告

昨年度、新型コロナウィルスの感染拡大に伴い、初めて屋外でのスポーツ大会を実施しました。本年度当初は、あらゆる対策を講じて従来通り SUBARU 総合スポーツセンターでの開催ができないか、検討を重ねてきましたが、夏以降も感染症収束の兆しが見えない状況であったため、本年度も屋外での開催に切り替えて 11 月 19 日（金）に第 11 回屋外スポーツ大会を開催致しました。幸い、開催の 1 か月程前から都内の感染者数も減り、当日は天候にも恵まれて無事に大会を開催することができました。なお、密を避けるため行先については野川公園、武蔵野の森公園、神代植物公園の 3 か所に分散させました。爽やかな秋晴れの下、各グループが紅葉を鑑賞しながらのウォーキングやダンス等のレクリエーションを行い、楽しく有意義な時間を過ごしました。当日の様子を写真も交えながら紹介させていただきます。

（支援専門　運動：髙橋　祥亮）

****

【野川公園】

前身は隣接する国際基督教大学所有のゴルフ場で、広大な芝生が広がり園内には野川が流れています。普段からウォーキングや余暇外出で利用しており、今回は大沢のせいびグループ、きずな工房、にじアートのわっしー工房、わくわく工房、創楽工房、みのり工房の男性グループが散策に行きました。

****

【武蔵野の森公園】

調布基地跡地利用計画としてできた公園で、調布飛行場と東京スタジアムに隣接しています。園内は北地区と南地区に分かれており、2 つの区域を結ぶプロムナード（直線 1km）では、毎年にじの会ロードレース大会も開催しています。今回は、大沢のすばる工房、仲・善工房、園芸グループ、未来工房の男性利用者がウォーキングを行いました。

****

【神代植物公園】

都内唯一の植物公園として昭和 36 年に開園し、約 4,800 種の植物が植えられています。今回は大沢のえがお工房、たいよう工房、つむぎ工房、未来工房の女性利用者、にじアートの女性グループと遊悠工房が散策に行き、昼食後はフォークダンスなどをして楽しみました。

****

1992 年 4 月 17 日第三種郵便物認可（毎月 3 回 7 の日発行）

2022 年　1 月　20 日発行　　SSKR 通巻第　9395 号

2021 年度　クリスマス会報告

＜大沢にじの里＞

12 月 24 日にクリスマス会を行いました。感染症対策として今年も工房毎に分散し、リモート形式で開催しました。午前はクリスマスの装飾で館内を飾り、華やかな雰囲気の中でスタートしました。各工房で事前に撮影した音楽発表動画を大型モニターやプロジェクターで鑑賞し、利用者やスタッフが映し出されるたびに拍手喝采が起こっていました。昼食はクリスマスメニューを満喫し、午後にはサンタクロースからプレゼントを貰って記念撮影を行いました。最後のダンスタイムには、B 型利用者の発表動画に合わせて踊り、皆さん大変盛り上がっていました。
リモート開催という形にはなりましたが、普段は見られない他工房の様子や利用者一人一人の表情など映像を通して堪能することができ、新しい形でのクリスマス会開催となりました。

（大沢にじの里　首藤円実）

＜にじアート＞

2021 年度のクリスマス会は 12 月 24 日ににじの里と時間を合わせて実施しました。昨年度と同様に感染症対策に配慮し、にじの里・にじアートでリモートによるクリスマス会となりました。にじアートでは 1 週間前から飾りつけをすることで、クリスマスの雰囲気を楽しみにされる利用者さんも多く、年の締めくくりとしてのイベントとなりました。

にじの里も含めた各部署が事前に撮影をした「工房発表」を大画面テレビで鑑賞して、様々な工夫を凝らした映像や、利用者さんの様子、スタッフの「面白動画」を楽しんでいました。

昼食も豪華なメニューで流されていた「動画」よりも食事を中心に楽しまれた様子でした。食後に再放映をすることで皆さんまんべんなく動画を楽しんでいました。工房によってはダンスを中心に楽しみ、クリスマスソングなどを歌ってクリスマスを味わっていました。サンタクロースからプレゼントをもらう利用者さんの笑顔がとても印象的でした。

今後も「ウィズ・コロナ」の中での、この様なイベントもさらに充実した「新しいイベント形式」に変化していく中で、利用者さんが楽しめる内容を提供していきたいと思います。

（にじアート　白坂　伸）

1992 年 4 月 17 日第三種郵便物認可（毎月 3 回 7 の日発行）

2022 年　1 月　20 日発行　　SSKR 通巻第　9395 号

ハーモニー「おつかれさま会」(クリスマス会)報告

12 月 27 日(月)にワークショップハーモニーとハーモニーガーデンの合同で、クリスマス会＆お疲れさま会を開催しました。当日は利用者会で検討した企画内容で、事前アンケートにより「映画鑑賞組」と「お菓子作り組」に分かれ、皆さん感染症対策を取りながら、積極的に準備や飾りつけに参加して会場を設営していきました。毎日忙しかった仕事を乗り切ってひと段落つき、この日ばかりはみなさん笑顔で自由に飾りつけなど楽しまれていました。「映画鑑賞組」は飲みたいジュースを選んで、ポップコーンと一緒に鑑賞することに決め、手作りのプロジェクタースクリーンで映画館の雰囲気を楽しみ、ほとんどの方が席を動かず最後まで鑑賞されていました。「お菓子作り組」はクレープを作りに決め、材料の買い出しから作る工程まで全員が分担し、自分が食べるクレープを自分で作っている表情は皆さん真剣で、できあがったクレープはとても嬉しそうに召し上がっていました。最後はそれぞれのグループともに利用者会企画として、「今年一年頑張った自分をほめよう」ということで、一人一人自分が頑張ったことを発表し、その都度全員で拍手して称賛し、皆さんが良い気分になったところで終了となりました。

（ワークショップハーモニー　鈴木美知緒）

にじの会　成人式報告

1 月 7 日（金）に「2021 年度にじの会成人式」が行われ、川俣元昭さん（未来工房にじ）１名が大人の仲間入りをしました。前日の雪が溶けきらぬ中、印象にも残る日となりました。2021 年度の成人は川俣さん１名ということもあり、「主役」感が見られ初々しいスーツ姿でご家族と共に厳かで、和やかな雰囲気の中「2021 年度にじの会成人式」を行いました。祝辞とビデオレターを観覧し記念品の贈呈と新成人の川俣さんに届いた祝電を披露させていただきました。昨年同様に新型コロナ感染症対策として職員の参加数を減らし「密」を避けた余裕のある空間での成人式となりました。また、昨年より成人を祝う会の代わりとして始めたビデオレターも笑顔で鑑賞され皆様のお祝いを喜んでいました。記念撮影と写真を受け取り、新成人としての自信に満ち溢れた様子でした。これからも様々な経験や体験もされると思います。成人式が人生の大きな節目となりますが、今後は「大人」としてにじの会でのご活躍を期待しております。

（定期行事担当　白坂　伸）

1992 年 4 月 17 日第三種郵便物認可（毎月 3 回 7 の日発行）

2022 年　1 月　20 日発行　　SSKR 通巻第　9395 号

人事制度プロジェクト 職員懇談会報告

＜新シニア等級 職員懇談会＞

今回も昨年同様、ハーモニーガーテンにて、同期や仲間意識の共有、今後の展望、また「にじの会におけるリーダー像」といったテーマに基づき、今年度シニア等級に昇級された 6 名の職員が参加しました。前半ゲーム形式で、情報共有の重要性や他者の好事例を活かした業務改善への理解を学び、後半のグループワークでは、リーダーとしての具体的な取り組みや理想像について話し合いました。しっかりとした考えを持った方が多く、今後の活躍にとても期待することができました。食事会については、昨年度同様、感染状況を踏まえ延期となりました。是非、落ち着いた際に実施できればと思います。　大倉　生

11 月 23 日　事業所別研修会

＜大沢にじの里＞

午前は各工房単位で「事業計画総括に向けた話し合い」、日頃の活動場面における「危険予知トレーニング」についてグループワークを行いました。今年度の事業計画での現状把握・改善点・総括に向けた具体的な取り組みを確認し意見交換を行うことで、各々が目標に向けた共通の認識を獲得することが出来ました。また、活動場面における危険予知トレーニングを通じて、改善点を抽出し、より安全な支援への取組みを発見することが出来ました。午後は各工房の「ICT 支援実践報告」、各グループでの「ICT 勉強会」を行いました。各工房の取り組みを共有し、タブレット機器の基礎から応用までを学ぶことで職員間でのスタンダード化を図ることが出来ました。今後もより良い支援を提供出来るよう充実した研修を開催していきたいと思います。　佐久間　稔

＜にじアート＞

人権研修として東社協の主催研修が動画配信されており、人権研修でも数多く講師をされている関哉直人弁護士の講義を視聴しました。虐待が疑われるグレーな事案よりも更に高い意識をもって権利侵害に繋がっているのではという「小さな出来事」について数多くの事例を挙げながらの講義を聞くことで、日頃の支援において利用者さんの権利について更に意識をしていく必要性を学びました。また、東京都看護協会の動画配信にて都内で実際に新型コロナのクラスターが発生した知的障害者施設の施設長から当時の様子や危機管理上、不足していた点や改善点を聞くことで、にじの会で行ってきた感染対策が間違っていなかった事の再確認と危機感を再度高めた感染対策の継続の必要性をスタッフで共有をしました。法人設立 20 周年の記念誌を基に法人の歩みや法人が大切にしてきた考えを再度、スタッフ間で確認しました。　時田秀明

＜ワークショップハーモニー＞

就労移行では午前中多様な障害への支援力の強化のため、各スタッフが参加した精神障害・発達障害の方への支援技法の研修内容を共有しました。第 1 部は「VCAT-J」という統合失調症の方の認知機能のリハビリテーションをパソコンのゲームと振返りを通じて行う技法について、実際にスタッフがゲームを体験し、概要を共有しました。第 2 部は「感情・我々はどのように向き合うか？」という研修内容を共有しました。感情の完全なコントロールは難しいということでした。第 3 部は発達障害の方の情報処理過程に注目したアセスメント技法について共有しました。午後は法人の方針である SDGS をより深く理解するために、「マンデラ」という南アフリカのネルソン・マンデラ氏の自伝をもとにした映画を鑑賞し、差別と平等・社会変革について理解を深めました。意見交換を通じてお互いを知ることも出来、とても有意義な研修でした。　小木曽　淳

1992 年 4 月 17 日第三種郵便物認可（毎月 3 回 7 の日発行）

2022 年　1 月　20 日発行　　SSKR 通巻第　9395 号

にじの会の SDG s の取組み　～ワークショップハーモニー～

１．子ども食堂への食事無償提供

現在三鷹市内に、様々な家庭の事情を抱えている子どもたちの「居場所作り」として、子ども食堂の「わくわく子ども食堂」さんと「だんだん・ばあ」さんがあります。にじの会では地域公益活動として、昨年からこの 2 ヶ所の子ども食堂へのパンや惣菜類の無償提供を開始しました。

どちらの団体も、もとは月に 1～2 回開催し、大人たちが手作りで食事提供していたとのことですが、コロナ禍では皆が集まっての食事はなかなかできなかったものの、現在は状況を見ながら再開しつつあるようです。

「わくわく子ども食堂」さんからは、定期的にワークショップハーモニーのお弁当の注文配達をしていたつながりがあり、現在は月に 1 回ほど 2～3 種類のお好きな菓子パンを中心に、子ども食堂の開催時間に合わせて配達しています。「だんだん・ばあ」さんとも事前にご希望の内容とワークショップハーモニーが協力できる内容を相談させて頂き、現在は数種類のバターロールパンや豆富つくね、揚げたてコロッケやポテトサラダなどお好きな惣菜類を選んで頂き、月に 1～2 回、参加している子供たちの人数分を配達しています。

2017 年 6 月から継続している買い物送迎支援事業「買い物ツアーかわせみ」と同様に、多くの地域の子どもたちや高齢者の方々が住みやすく喜んで頂けるような活動として取組んでいきます。

２．豆富工房のおからのリサイクル活用

ワークショップハーモニーの豆富工房では、国産丸大豆を使用して毎日たくさんのお豆富を製造していますが、それとあわせて「おから」もたくさん出てきます。現在ワークショップハーモニーや未来工房にじでは、おからの栄養価に着目し様々な商品開発をしてきました。

健康食としても注目されている「おからパウダー」は、粉状に仕上げていますので、そのまま汁物に入れたり、揚物の衣やハンバーグに混ぜたりと手軽に調理できます。またじっくりとおからを焙煎した「おから茶」は、ふんわり香ばしい香りが楽しめ、健康茶としても好評です。

にじの会ギフトセットでもおなじみの「おからクッキー」は、グラハムや黒ゴマを混ぜ合わせ、食べやすく種類も豊富に取り揃えました。昨年新発売した愛犬用の「ワンちゃんクッキー」は、販売前に何度も改良を重ね、50%の割合でおからを使用することに成功し、食べやすいかぼちゃ味に仕上げた本格ヘルシー志向で、ワンちゃんにも安心して食べてもらえると大好評です。

大沢にじの里の園芸班では、約 50%のおからと鶏糞や燻炭などを混ぜ合わせて成分調整し、天地返しを繰り返し数ヶ月間じっくり寝かせてつくる「おから堆肥」を開発、地域の皆様には大好評です。このように副産物も有効活用しながら、今後も環境課題に取り組んでいきます。

（ワークショップハーモニー　清水宏一郎）

「おから商品」はにじの会 3 店舗で購入できます。商品のお問い合わせは、店舗スタッフまでお願い致します。

おからパウダー150 円、おから茶 150 円、ワンちゃんクッキー 300 円、おからクッキー200 円～、おから堆肥 2ℓ　200 円

おから堆肥

1992 年 4 月 17 日第三種郵便物認可（毎月 3 回 7 の日発行）

2022 年　1 月　20 日発行　　SSKR 通巻第　9395 号

2021 年度職員表彰の報告

2021 年度の職員表彰はコロナ感染予防のため、チーム表彰と個人表彰ともに個別に表彰されました。表彰されたチーム及び個人は以下の通りです。

１．研究功労賞

業務改善委員会　システム開発担当（大河原 侑弥、奈良 亮）

表彰事由　ＨＰの運用管理向上と食数・勤務表等の業務システムの改善開発を中心に取り組み、大きな改善効果を実現した。

２．運営功労賞

①20 周年記念事業担当（下山 唯人、坂野 健司、千葉 洋子、杉本 広明）

表彰事由　法人設立 20 周年記念事業として 20 周年記念誌発刊、記念式典の開催を中心的に担当し、円滑な運営を実施した。

②感染対策本部事務局及び医務室

（新津 健朗、倉友 園子、大島 由紀子、茂木 文子、加納 紀子）

表彰事由　新型コロナウィルス感染予防策の徹底指導とワクチン接種・ＰＣＲ検査の定期実施を中心的に推進し、法人内での感染を未然に防止した。

③支援専門部門イベント担当（栗本 武、高橋 祥亮、千葉 鉄也、内山 久子）

表彰事由　新型コロナ禍で、美術展・ウォーキング大会・野外スポーツ大会等の施設外でのイベントの安全な開催を中心的に担当し、「利用者に寄り添う支援」を実現した。

３．勤続表彰

優秀勤続 15 年表彰　横内 美代子、大河原 侑弥、福島 章、千葉 洋子

優秀勤続 10 年表彰　曽根 隆、佐々木 百紀美、野口 範子

優秀勤続　5 年表彰　三浦 正治、鈴木 ゆかり、栗子 育也、平山 智美、佐藤 昌美
本間 典子、長谷川　靖、佐久間　稔

４．部署別研究表彰

日中参観動画最優秀賞　大沢にじの里　工房たいよう

日中参観動画　優秀賞　にじアート　　わくわく工房

業務改善委員会
システム開発担当

感染対策本部事務局
及び医務室

優秀勤続 15 年表彰

にじアート
わくわく工房

『にじの会だより 80 号』　定価　50 円

発行所：特定非営利活動法人障害者団体定期刊行物協会

〒157-0072　東京都世田谷区祖師谷 3-1-17　ヴェルドゥーラ祖師谷 102 号

TEL:03-6277-9611　FAX:03-6277-9555

編集人：社会福祉法人にじの会

〒181-0015　東京都三鷹市大沢 1-6-3　TEL：0422-39-2411　FAX：0422-39-2412